

十島村教育委員会だより 令和4年12月号

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

【宝島の朝焼け】(ブログより)



【1年を振り返って！ そして来年に繋げるために！！】

十島村教育長 木戸浩

今年を振り返ってみますと、やはりコロナに翻弄された1年になったような気がしました。しかし、昨年までとは異なり、様々な学校行事はもとより、村の各種行事もWithコロナで、七島巡りトカラマラソンやボゼツアーなども実施されました。

小中学校の修学旅行が実施できたことは、児童生徒はもちろん、先生方そして保護者の皆さんもほっとされたことと思います。ここ2年以上、地域の方々との触れ合いもほとんどなくなり、子どもたちの顔や先生方の顔も分からないと言われておりましたが、コロナウイルス感染症対策を十分にとったうえで、運動会や文化祭も地域の方々や、山海留學生の保護者の方々も参加した実に和気あいあいとしたものになったようです。学校が地域の中心となって活力を与えられる存在なのだとこのことを改めて感じたところです。

学校現場では、子どもたちに知・徳・体のバランスをとりながら校長先生を中心に、先生方が学力や体力をつけるために日々教育活動に取り組んでくださっています。それに応えようと子どもたちも全力で学んでいます。

『笑顔の効用』

実は「笑顔は伝染する」という研究報告があるようです。笑っている人(=笑顔の人)の楽しげな様子を見ることで、人は反射的に笑顔になってしまう傾向が高いのです。そして、こうした「つられ笑顔」や「無理やりの笑顔」であったとしても、「笑顔の効果」が発生することが分かっています。笑顔も伝染していくので集団全体のストレスも軽減され、場の雰囲気がとても良いものになっていくのです。それが、好感度アップ、プラス思考、免疫力アップ、課題解決へのエネルギーアップへとつながるそうです。

出口のなかなか見えないコロナ禍でしたが、基本的な手指消毒やマスク着用、3密の回避、ソーシャルディスタンスなど、本来にあらゆる手段を講じながらコロナ感染症対策に努めていたのだというところから、年末・年始にかけて人の往来も多くなると予想されます。第8波も始まったようです。一筋の光明を見出すべく、来年の干支であるうさぎのように、皆様が飛躍できることを期待したいと思います。佳い年をお迎えください。

《前を向かせてくれる 深い言葉》

4つのS

SMILE [笑顔]

SPEED [素早く]

STUDY [学ぶ]

SINCERITY [誠実]

和田幸一郎 (前志布志市教育長)

まずは感謝で迎えよう

どんな些細なことでも感謝を先にして喜びで迎えたなら、黄金花咲く
爛漫たる喜びの世界になる。

中村天風 (思想家)

二通りの人間

人間には二通りあると思っている。

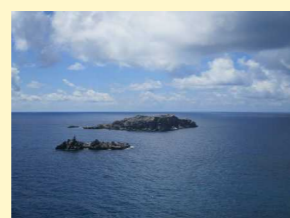
不利な状況を喜べる人間と、喜べない人間だ。

羽生善治 (棋士)

壁はチャンスと捉えよう

壁というのは、できる人にしかやっこない。
超えられる可能性がある人にしかやっこない。
だから、壁がある時はチャンスだと思っている。

イチロー (元プロ野球選手)



【中之島 平瀬】

中之島中一年
藤谷 萌夏
光る海
水平線まで
泳ぎきれ

青の俳句 特選作品

中学生の「税についての作文」

鹿児島県税務署長賞 小宝島中学校2年 岩下 和矢

「おい和矢、タケノコいらんか。」

今日も元気な声が家の外から聞こえてきた。

私には九十五歳の元気な曾祖母がいる。島の人たちは「みよばあ」と呼ばれている。

みよばあは、毎日の散歩が大好きだ。散歩とはいつでも、足腰が弱ってきているので愛車のシニアカーに乗って、島を周回するのである。散歩をしながら、島の美しい風景を眺め、タケノコや山菜を採り、出会った島の人たちにそれを配るのを日課にしている。

みよばあは、人と対話をし、交流するのが大好きである。平日は毎日、近所にある多世代交流施設「アダンの里」に出かける。そこで島の高齢者や施設のスタッフ、また学校の外国語指導助手ジェイク・ブラックバーン先生と楽しく対話をし、生き生きと活動に参加している。みよばあはアダンの里での活動を楽しみにしており、ここで作った押し花や切り絵の作品は自宅の廊下に大切に飾っている。

そんなみよばあもさすがに健康面で不安がないわけではない。私が小学校低学年の頃は、しっかりと自分の足で歩き、畑を耕し元気にサツマイモを作っていたことを覚えているが、少し足腰の衰えが気になるようになってきた。

このところ咳をすることも増えており、気にかかる。小宝島には診療所が一つだけある。みよばあはそこへ定期的に薬をもらいに行ったり、健康相談をしている。身近なところに医療施設があり、看護師が常駐していることは、家族にとっても大変心強い。

調べてみると、みよばあを生活を支えている様々なサービスの多くに、私たちが納める税金が使われていることが分かった。多世代交流施設「アダンの里」や小宝島診療所などの医療・福祉施設、私たち島民の生活を支える「フェリーとしま2」の運行、その他高齢者の年金や医療費まで幅広く税金が使われていて、みよばあを愛車のシニアカーもその一つである。だから、みよばあが健康で、生き生きと安心して過ごせるのも税金のおかげである。本当にありがたいことだ。

日本は今、世界に類を見ないスピードで高齢化が進行している。高齢者を支える社会保障費の財源が不足しているという話を聞いたことがある。財源を補うために消費税率も少しずつ引き上がり、現在は十パーセントとなっている。それでもまだ十分とは言えないらしい。社会に暮らすすべての人々が、安心して豊かに暮らせる未来をつくるために、税の仕組みやあり方について、私たち一人一人が真剣に考えていく必要がある。

私の大好きなみよばあは、今日も散歩に出かける。いつまでも元気で、長生きしてほしい。



シリーズ・・・十島村で学ぶ

【中之島で学ぶ】

「不便だからこそ」

中之島中学校3年 滝口 瞬季

私は、小学五年生の時、中之島に来て、今年で4年目になります。中之島は、私が以前暮らしていた街とは比べものにならないほど、自然にあふれています。ヤギや牛、珍しい鳥などが人々と普通に共存しており、驚かされることばかりです。地域の人との距離が近いことも温かみを感じます。

一方で、不便なこともあります。必要な食料や生活用品を得るには週に2回のフェリーを待つしかありません。また、私の自宅はインターネット環境が整っていないため、得られる情報はテレビや本等に限定されています。

鹿児島島に住んでいた頃は、物も情報も溢れており、不足して困るという体験をしたことがありませんでした。中之島に来たからこそ、それらの大切さを実感することができました。

また、簡単に店で買うのではなく、壊れた物は、できる限り自分で修理して長く使えるように工夫しています。このように、今あるものを大切に使うようになりました。

これからも、不便な生活の中でも、できることを見つけ、残り少ない中之島での生活を楽しまたいです。



【小宝島小・中学校からのメッセージ】

教頭 東 哲朗

緑豊かな竹ん山、小宝ブルーの美しい海、優しい笑顔で接してくれる地域の方々にも囲まれた小宝島での生活は、私にとって「特別な時間」です。

教頭として赴任して二年目、私には大切にしている時間があります。それは、小宝島周回ウォーキングです。距離にしてわずか2km、時間にして約25分になります。

さわやかな風を受けながら歩いていると、途中で様々な生き物たちとの出会いがあります。紫や赤の色鮮やかなカニ、純白の羽が映えるしらさぎの群れ、また、牧場の牛たちは親子愛にあふれ、子牛はつぶらな瞳で母牛を見つめています。これらの生き物を眺めているととても癒されます。しかし、時には思わぬ危険生物との遭遇があります。トカラハブです。突然の出会いには、心臓が止まりそうになり、同時に冷や汗が出ます。こちらは要警戒です。また、早朝学校の玄関で、超巨大ヤシガニと遭遇したこともありました。地元の方に聞くと、太くて大きなハサミは、かなり危険なのだそうです。

鮮やかで美しく、そしてワイルドな姿で癒しを与えてくれる生き物と出会える小宝島は私にとって特別な場所です。また、散歩の途中で出会う地元の方々との会話は、島で豊かに暮らす知恵とヒントにあふれています。素朴な優しさや笑顔で、新しい発見と驚きを教えてください地域の皆様には本当に感謝しています。

私にとっての「特別な時間」、小宝島での生活をこれからも大切にしていきたいと思っています。

開かれた学校づくりを目指し、島全体で子どもたちの教育に携わる環境を共に作り出していきたいです。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

今年、村教研で十島の先生方や村教委の先生方と共に学ぶことができ嬉しかったです。今後とも「十島はひとつ」を合言葉に、連携と協力をよろしくお願ひします。